新しい温泉地の過ごし方をみんなで考えよう

# NEWS LETTER No.7

チーム 新・湯治

「チーム新・湯治」ニュースレター　発行元：環境省温泉地保護利用推進室　発行日：令和2年9月17日

## 第６回「チーム　新・湯治」セミナー［オンライン開催］
## 現代人の生活に“寄り添う温泉”とは

～健康の維持・増進の観点から温泉地の可能性を考える～

環境省では、令和2年8月26日に「チーム新・湯治」セミナーを開催しました。ストレス・情報過多な社会に生きる現代人の「心身の健康の維持・増進」に、温泉や温泉地はどのように寄与できるのか。現代人の日常の暮らし、健康、働き方に日々触れられ、業務をされている３企業の方から、現在進行形の取組をご紹介いただきました。温泉地の新たな活用の仕方が今後も生まれ、拡がっていくことを期待します。

### 温泉地を舞台に、自分らしい生き方を支援する

株式会社リヴァ
代表取締役　伊藤崇氏

インターンプログラム

| 目的 | ・慣れてない環境でストレスをかける<br>・新たな自分の強みや課題を知る<br>・様々な働き方、暮らし方を体験する |
|---|---|

- 株式会社リヴァでは、うつ病の方の社会復帰支援として、その根本である考え方や行動に対して働きかけている。社会の仕組みの中で誰もが当たり前のように一度立ち止まって「自分らしい生き方」を考え選択していけるような社会をつくりたいと思い、４つのサービスを提供している。その一つが個人向けのサービス「リヴァトレ」である。センターに通い、コミュニティの中に身を置きながら、生活リズムを改善するとともに、仕事を進める上での課題と向き合い、自分に合ったストレス対処法などを身に着けてもらう。

「自分らしく生きるためのインフラをつくる」ビジョンイラスト

- 同トレーニングの一環として、昨年、初めて温泉地での「インターンプログラム」を実施した。場所は、東鳴子温泉(宮城県)にある旅館大沼。湯治文化を大切にされ、湯治をテーマにした新たな取組もされている。この湯治を自分たちが提供するトレーニングの中に組み入れたら効果的なのではないかと思って始めた。
- インターンとして、慣れない環境の中で、12日間、露天風呂の清掃、チェックイン業務、食事の準備、片付けなどを行ってもらった。同期間中は、毎日３回、温泉に入浴するほか、全国から同旅館に湯治目的で集まっている方々と夜ご飯を一緒に食べて交流したり、休みの日には、周辺の自然を満喫するなどして過ごされていたようだ。ご本人からは、誰も知らないところに一人で赴き、スタッフの方々と連携して仕事をできたこと、そして、お客さんにも対応できたことが自信に繋がったと聞いている。
- 今後は、今回のインターンプログラムをより多くのリヴァトレ利用者に紹介するとともに、弊社が展開する業務システムを利用いただいている同業他社の利用者さんに対しても紹介し実績を増やしていきたい。あくまでインターンであり、ストレスが掛かることが重要であるため、受け入れ温泉地の方々は、気を遣わず普通に接して仕事を振っていただければと思う。温泉地の方々、関係者と協力しながら仕組みを広げていきたい。

### 日常生活における健康と温泉地での健康プログラムを結び付ける

株式会社5-RELAX
セラピスト　阿瀬宏太氏

- 株式会社５-RELAXは、スポーツトレーナーの派遣・育成事業や、一般の方に対しての健康医療の発信の一つとしてパーソナルトレーニングの提供などを行っている。「健康をもっと身近に」というビジョンのもと、より多くの方々の日常が健康で笑顔の溢れるような社会になることを目指している。

- 2019年には、湯村温泉(兵庫県)の特徴である高温泉を活かした新たなプログラム「温熱リラックス」を新温泉町役場に提案し、共同で調査を行った*。同プログラムは、夜空のもと、川沿いの遊歩道に埋設されている配管から伝わる温泉熱を背中で感じながら呼吸法やストレッチを行い心身をリラックスさせることを目的するもの。同機会を通じて自分の身体と向き合うことは、結果的に簡単に自分でできる健康管理の一つになると考えている。実施にあたっては、関西都市部にある弊社店舗の健康志向の強い顧客の方々などにモニターとして協力いただいた。
- 現在私は「地域おこし企業人」として、新温泉町役場のおんせん天国室に派遣され、温泉を活用した健康の発信や健康プログラム(町民の方々のニーズを把握し健康増進を目的として開発した「温泉カラダととのえ塾」など)の開発を行っている。
- 今後は、「新温泉町＝新・湯治のまち」というブランディングを目標として、新温泉町ならではの価値を持つコンテンツを開発していきたい。まずは町民の方々の健康水準を高める取組を行い、地域内外の方に「このまちの人は皆が生き生きしている、元気だね」と思っていただけるようなまちをつくることを目指してる。

**地域おこし企業人としての活動**

新温泉町役場：企画課 -おんせん天国室-

ミッション：温泉を活用した健康の発信

地域（町民）への健康　／　観光客向けプログラム作り

*新温泉町が実施した新・湯治コンテンツモデル調査の詳細については、NEWS LETTER No.5をご覧ください。

## 都会で働く現代人の知的リフレッシュにも応える温泉地のあり方 ～Withコロナ時代を見据えて

株式会社ベーシック
代表取締役田原祐子氏

- 株式会社ベーシックでは、企業を対象とした研修やプロジェクト等を行っている。知的生産性を高める時代において、温泉地においては、週末に集中する観光だけに頼るのではなく、「働く」という視点から資源を見直し、平日の活用を促していくことが重要である。
- 企業の新しい温泉地活用スタイルとしては、コロナ禍で導入が進むテレワークのほか、オフサイトミーティング、ワ―ケーション、サテライトオフィス、コワーキングスペースがある。温泉地では、温泉資源や自然環境を活かしつつ、地域内で様々な機能（ワークスペース、食事、宿泊場所等）を相互補完し協力して取り組むことで、様々な規模、要望に応じた受入れも可能になる。
- 2019年度には、新・湯治コンテンツモデル調査として「温泉地×Business Woman&オープンイノベーション」を伊豆修善寺温泉(静岡県)で実施した*。「女性活躍推進」というテーマのもと、ターゲットに合わせたメディアや温泉宿泊施設とコラボレーションし、ディスカッション等を行うプログラムを実施した。その結果、一般的な「リフレッシュ効果」「気分転換」という温泉地や自然環境効果に加えて、別途、すぐにビジネスやプライベートに活用できる、気づきや意識変革が大きな成果としてあがった。自治体や温泉地がテーマを設定し、ターゲットに応じた施設やメディア等と連携して行うなど、様々なバリエーションが考えられる。
- 社会の変革、経済の変革は、知と知の組み合わせから生まれる。「チーム新・湯治」チーム員同志で、既にある強みを新しく掛け合わせることによって、新しい手法や考え、コンテンツを生み出せるだろう。

**①【新たなポテンシャル（可能性）を見出だす！】**

○変化している、ワーケーションに求められる条件
【Before】× ⇒【After】○
・都心から、２時間以内が目安 ⇒ 離れていても、Wi-fi環境が整っていれば、仕事ができる
・社員がリフレッシュできる環境はNG ⇒ 温泉と、国立公園の、自然の恵み

○デメリットは、メリットにも転換できる
【Before】× ⇒【After】○
・気密がよくない、昔ながらの旅館 ⇒ 空気がいつも入れ替わっている
・Wi-fiがつながらない ⇒ 熟考型の会議、重要会議、籠って実施する内容の会議

**②【滞在スキームの再検討】 2019年に構築したモデル⇒2020年型へ転換**

職.機.食.泊 のマッチングパターン
⇒選択と集中 +コロナ対策を加える
⇒コロナ禍で、このスキームを、自社に合わせて、再度検討すれば！新たな道が開ける！！

職＝仕事をする場所/機＝オフィス機器、備品/食＝食事/泊＝宿泊

**③【新たな時代を迎える、今こそ！ｵｰﾌﾟﾝｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ&ﾋﾞｼﾞﾈｽﾓﾃﾞﾙの転換を！】**

イノベーションの本質：知と知の組み合わせ＝新結合
※今すでにある、強みを、新しい手法や考え方で！

※詳細は、環境省「チーム新・湯治」Webページで公開予定のセミナー資料をご覧ください。

*新・湯治コンテンツモデル調査の詳細については、NEWS LETTER No.5をご覧ください。

# 温泉地活性化に取り組む企業の紹介 ～ワーケーション特集～

温泉地活性化に取り組む企業にそれぞれの活動内容や温泉地の可能性などについてお話をうかがってきました。

## 株式会社パソナJOB HUB

・パソナJOB HUBさんは、地域の企業・住民と都市にいて地域貢献を考えている個人や企業をマッチングさせる協働型ワーケーションの取組をされています。
・地域の企業は「新しいチャレンジをしたい」「地域をより良くしたい」という思い・考えがあるもののヒトやモノが少ない。都市には新規事業立ち上げやITなどのスキルを持った人材は多いが地域への関わり方が分からない。この間をパソナJOB HUBさんが開催するセミナー、フィールドワーク等の「学び・体験の場」でマッチング。そこからワーケーションというツールを使ってWin-Winの関係を構築しています。
・マッチングにおいては、ワーケーションを考えている方に、地域の企業や旅館の経営者の方などの想い、ビジョンを理解してもらい、信頼関係を構築してもらうこと。ワーケーションにおいては、なぜそこに行くのか、その価値づけ、意味づけを行うことを大切にして、事業を行われているとのことでした。
・ワーケーションは地域にとっては関係人口創出や企業の課題解決・イノベーション、都市の企業にとっては人材育成やSDGs/ESGへの寄与、働く個人にとってはキャリアアップや多様な働き方・生き方の探求など大きな可能性があるとのこと。
・温泉地においても新商品開発やマーケティング支援などワーケーションを通じて実践された事例などが出てきているそうです。
・今後ますますクローズアップされるワーケーションの一つの形として非常に魅力あるお話でした。

株式会社パソナJOB HUBさんにご関心のある方は、お問合せページまで是非ご連絡ください(http://mag.jobhub.jp/workation/)。

## 三菱地所株式会社

・三菱地所さんは、「ワーケーション」を、休暇ではなく「Workの質を高め、様々なationを生み出す働き方」と定義し、イノベーションを起こすための新しいワークスタイルとして提案されています。そして、これまでにない新しい働き方を実現させる場所として、ワ―ケーション施設「WORK×ation Site」を南紀白浜と軽井沢に整備されています。

例
Location [場所]
Motivation [動機]
Communication [対話]
Innovation [刷新]

・VACATIONに限定しない、いろいろなATIONを実現できるワークスペース、多様な働き方を受け止める施設と捉えて、マーケット全体を育成していくことが重要とのことでした。
・専用のポータルサイト(https://workxation.mec.co.jp/)も開設し、自前の施設に加えて、趣旨に賛同いただける地域、施設と協力しながら、その地域の強みや可能なサービスなどを一緒に考え、事業を盛り上げていきたいとのこと。
・温泉地でのワ―ケーションについては、温泉は必須アイテム。その上で、ビジネスユースという視点から、施設でのプライバシー確保とともに、「この場所で新たな価値をつくりに来ている」と利用者の気持ちを切り替えられる、ワークにスイッチを入れられるような工夫が必要ではないかということでした。
・ワ―ケーションを実際に体験し、自らの体験を持って、その価値が社会により認識され浸透していくことを期待します。

三菱地所株式会社さんにご関心のある方は、お問合せページまで是非ご連絡ください(https://workxation.mec.co.jp/inquiry/)。

＊三菱地所さんの2018年までの取組については、NEWS LETTER No.2をご覧ください。

「チーム 新・湯治」【環境省温泉地保護利用推進室】
令和２年度運営業務請負事業者：公益財団法人日本交通公社 チーム新・湯治係（後藤・安谷）TEL:03-5770-8440 FAX:03-5770-8359 E-mail:shintoji@jtb.or.jp